

令和6年度

伊勢崎市立坂東小学校



学校通信

ばんどうたろう

坂東太郎



第 17号

令和6年6月27日(木)発行

校長 関根 崇史

【PTA資源回収 ありがとうございました!】

6月22日(土)にPTA資源回収が行われました。前年度本部役員も含むPTA本部の皆さんが中心となり、事前の回収作業や諸準備を行ってくれました。また、当日は各学年委員長、保健体育委員会、地域安全委員会、環境整備委員会の皆さん、広報委員会の代表者等々、総勢40名以上が来校し、作業にあたってくれました。中学生や小学生の助っ人参加もあり、和やかな雰囲気の中、スムーズに作業を進めることができました。また、学校まで資源を運んでくれたご家庭も多く、様々な方々にご協力いただき、新聞、雑誌、書籍、ダンボール、牛乳パック、雑紙など、たくさんの資源を集めることができました。



回収した資源は、回収業者が買い取りをしてくれます。また、伊勢崎市では事前に市へ登録をした団体が古紙の集団回収を行うと、1kgあたり8円の奨励金が交付されます。「業者の買い取り金額+伊勢崎市からの奨励金」が資源回収の収益となります。これらのお金については、PTA本部が管理し、必要に応じて、教育環境の充実や整備のために活用させていただくことになります。

今回の活動を通して、坂東小学校が保護者や地域の皆様から温かいご協力、ご支援をいただいていることを再認識しました。これからも感謝の気持ちを忘れずに、子供たちのために充実した教育活動が進められるように努力をしていきます。学校、家庭、地域が三位一体となって子供たちを支援し、成長を見守ってくることが、子供たちの健やかな成長につながります。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をお願いします。



「子は親の鏡、親は子の鑑(こはおやのかがみ、おやはこのかがみ)」

この言葉を聞いたことがあるでしょうか？

「子は親の鏡」というのは、子供というのは親の言動を映すものであるということです。そして、「親は子の鑑」というのは、親は子供の手本になるべきだということです。

子供は、親の姿を思っている以上によく見ています。ああしなさい、こうしなさいという躰(しつけ)の言葉よりも、親のありのままの姿のほうを子供はよく覚えています。親は、子供にとって人生で最初に出会う、最も影響力のある「手本」なのです。子供は、毎日の生活の中での親の姿や生き方から、良いことも悪いこともすべて吸収していきます。口で何かを教え込もうとしてもダメなのです。親がどんなふうに喜怒哀楽を表すか、どんなふうに人と接しているか、その姿が手本として、子供に生涯影響力をもち続けることとなります。

親であれば、我が子によりよい人生を送ってほしいと願うはずですが、子供を立派に育てたいのであれば、まずは親自身が自分の行いを見つめ、正していくことが大切です。

また、「子は社会の鏡」という言葉もあります。親だけではなく、私たち教職員も含めた子供を取り巻く全ての大人たちが、人としてあるべき姿を背中であらわすことが必要です。

保護者の皆様も、そして私たち教職員も「子の鑑」でいられるように、子供の姿から、自分の言動を絶えず見つめ直していきましょう。